

令和8年度教育課程進度計画表



関西医療学園専門学校
柔道整復学科

分野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基礎, 人間と生活		
講義名	健康科学		
授業方法	講義		
単位数	3単位		
時間数	45時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験			

講義内容・目標	生物の構造物質やその作用、反応について修得する・健康とは何かを考え、健康維持に必要な知識を人体の機能の面から学修し理解することを目標とする。	
授業計画	1	健康の定義
	2	人体の仕組み(生体の構成成分)
	3	タンパク質の分解
	4	アミノ酸の構造
	5	アミノ酸の代謝
	6	糖の分類
	7	単糖、二糖類、多糖類の構造
	8	糖の役割・代謝
	9	糖質と健康の関係
	10	脂質の分類
	11	脂肪酸の構造・種類
	12	リン脂質の構造・役割
	13	コレステロールの構造・役割
	14	脂質の代謝
	15	脂質と健康の関係
	16	核酸・ヌクレオチドの構造
	17	酵素の機能・特徴
	18	ビタミンの種類
	19	ビタミンと健康の関係
	20	水と健康の関係
	21	イオンの種類・役割
	22	イオンと健康の関係
	23	ホルモンの種類・役割

成績評価	筆記試験 学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基礎, 人間と生活		
講義名	生命科学		
授業方法	講義		
単位数	4単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験			

講義内容・目標	生命を対象とする自然科学の知識を修得する・人体の成り立ちや形態、構造および機能など医学の基礎となる知識を修得することを目標とする。		
授業計画	1	概論	
	2	細胞	
	3	組織	
	4	組織	
	5	組織	
	6	発生	
	7	器官系統	
	8	人体の区分	
	9	脈管	
	10	心臓	
	11	心臓	
	12	動脈	
	13	動脈	
	14	動脈	
	15	動脈	
	16	静脈	
	17	静脈	
	18	静脈	
	19	胎児循環	
	20	リンパ	
	21	リンパ	
	22	脾臓	
	23	胸腺	
	24	生殖器	
	25	男性生殖器	
	26	男性生殖器	
	27	女性生殖器	
	28	女性生殖器	
	29	胎盤	
	30	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(満点100点)

分 野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基礎, 人間と生活		
講義名	基礎法学		
授業方法	講 義		
単位数	1 単位		
時間数	1 5 時間		
学 科	柔道整復学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	<p>法律の基礎、患者の権利、医療危機管理、柔道整復師の保険の知識修得をする。・国民の生活を守るセーフティネットである社会保障の医療保険を取り扱う柔道整復師は、医療保険を療養費として取り扱っているが、患者の経済的状況やその利便性から協定や契約で受領委任の形態で運用している。憲法の生存権を支える制度として、その運用は公正な取り扱いが求められ、法的な基礎知識からその運用を考えることが必要であるので、柔道整復師の医療保険の運用を法的な基礎知識、憲法、訴訟、患者との関係など総合的に理解することを目標とする。</p>		
授業計画	1	法の基礎知識	
	2	罰 則	
	3	基本的人権、自己決定権	
	4	国民医療費、療養費、受領委任払制度	
	5	インフォームド・コンセント	
	6	医療危機管理と医療紛争	
	7	医療危機管理と医療紛争	
	8	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	解剖学		
授業方法	講義		
単位数	6単位（3単位・3単位）		
時間数	90時間（45時間・45時間）		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験			

講義内容・目標	正常な人体の構造について知識を修得する。・内臓系、内分泌系、神経系、感覚器系解剖学、体表解剖、映像解剖について正確な理解をし、人体の形態や構造の特徴について受講生が体系的かつ正確に理解することを目標とする。		
授業計画	解剖学（I-1）	解剖学（I-2）	
	1 概論	24 内分泌系（下垂体・松果体）	
	2 細胞と組織	25 内分泌系（甲状腺）	
	3 発生と器官	26 内分泌系（上皮小体）	
	4 消化器系（口唇・口腔）	27 内分泌系（副腎）	
	5 消化器系（歯・舌）	28 内分泌系（膵臓）	
	6 消化器系（咽頭）	29 神経系基礎	
	7 消化器系（食道）	30 神経系（総論）	
	8 消化器系（胃）	31 神経系（脳室系）	
	9 消化器系（小腸）	32 神経系（髄膜・脳脊髄液）	
	10 消化器系（小腸）	33 神経系（大脳）	
	11 消化器系（大腸）	34 神経系（間脳）	
	12 消化器系（大腸）	35 神経系（中脳・橋）	
	13 消化器系（肝臓）	36 神経系（延髄）	
	14 消化器系（胆のう・膵臓）	37 神経系（小脳）	
	15 呼吸器系（外鼻・鼻腔）	38 神経系（伝導路）	
	16 呼吸器系（副鼻腔）	39 神経系（脳神経）	
	17 呼吸器系（咽頭・喉頭）	40 神経系（脊髄神経）	
	18 呼吸器系（気管・気管支）	41 神経系（自律神経）	
	19 呼吸器系（肺）	42 感覚器（外皮）	
	20 呼吸器系（胸膜・縦隔）	43 感覚器（視覚器）	
	21 泌尿器系（腎臓）	44 感覚器（聴覚・平行器）	
	22 泌尿器系（尿管・膀胱）	45 感覚器（味覚器）	
	23 泌尿器系（尿道）	46 まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格（100点満点）

分野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	解剖学		
授業方法	講義		
単位数	4単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験			

講義内容・目標	正常な人体の構造について知識を修得する。・運動器系を中心に講義を進めていき、専門基礎分野・専門分野への出発点とする。柔道整復師の施術である骨折や脱臼の整復に必要な骨・筋・関節の正常な形態を理解することを目標とする。		
授業計画	解剖学（Ⅱ）		
	1	骨学総論	
	2	脊椎の骨	
	3	脊椎の骨	
	4	脊椎の骨	
	5	脊椎の骨まとめ	
	6	胸郭の骨	
	7	上肢の骨	
	8	上肢の骨	
	9	上肢の骨	
	10	上肢の骨まとめ	
	11	下肢の骨	
	12	下肢の骨	
	13	下肢の骨まとめ	
	14	頭蓋の骨	
	15	頭蓋の骨	
	16	頭蓋の骨まとめ	
	17	関節学概論	
	18	体幹の関節	
	19	上肢の関節	
	20	下肢の関節	
	21	骨学、関節学の復習	
	22	筋学総論	
	23	体幹の筋	
	24	上肢の筋	
	25	下肢の筋	
	26	筋学まとめ	
	27	体表解剖、映像解剖	
	28	体表解剖、映像解剖	
	29	体表解剖、映像解剖	
	30	総復習	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	生理学		
授業方法	講義		
単位数	10単位(4単位・6単位)		
時間数	150時間(60時間・90時間)		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験			

講義内容・目標	正常な人体の生理学的機能の知識を修得する。・生理学の基礎・筋・神経・運動・感覚の生理学や、高齢者・競技者の生理学的特徴と変化を理解し、人体の各機能について知識と関連性を修得する事を目標とする。					
授業計画	生理学 (Ⅰ)			生理学 (Ⅱ)		
	1	生理学の基礎	31	内分泌	61	呼吸の生理
	2	生理学の基礎	32	内分泌	62	呼吸の生理
	3	生理学の基礎	33	内分泌	63	呼吸の生理
	4	生理学の基礎	34	内分泌	64	呼吸の生理
	5	生理学の基礎	35	内分泌	65	呼吸の生理
	6	筋肉の生理	36	内分泌	66	尿の生成と排泄
	7	筋肉の生理	37	生殖	67	尿の生成と排泄
	8	筋肉の生理	38	生殖	68	尿の生成と排泄
	9	筋肉の生理	39	生殖	69	尿の生成と排泄
	10	筋肉の生理	40	生殖	70	尿の生成と排泄
	11	神経の生理	41	生殖	71	栄養と代謝
	12	神経の生理	42	生殖	72	消化と吸収
	13	神経の生理	43	骨の生理	73	体温とその調節
	14	神経の生理	44	骨の生理	74	競技者の生理学的特徴と変化
	15	神経の生理	45	骨の生理	75	まとめ
	16	神経の生理	46	骨の生理		
	17	神経の生理	47	骨の生理		
	18	神経の生理	48	血液		
	19	運動の生理	49	血液		
	20	運動の生理	50	血液		
	21	運動の生理	51	血液		
	22	運動の生理	52	血液		
	23	運動の生理	53	血液		
	24	感覚の生理	54	まとめ		
	25	感覚の生理	55	循環		
	26	感覚の生理	56	循環		
	27	感覚の生理	57	循環		
	28	感覚の生理	58	循環		
	29	高齢者の生理学的特徴と変化	59	循環		
	30	まとめ	60	循環		

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	保健医療福祉と柔道整復の理念		
講義名	医療法規		
講義方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	沿革・柔道整復師法・資格法規・医療法・社会福祉法令・社会保険法令の法規、職業倫理を修得する。・柔道整復師法を学ぶことにより、我々柔道整復師が社会でどのような地位にあり、法律上どのようにその業務が担保されているのかを知り、将来社会とどのようにに関わり、他の医療資格や医療提供施設と接骨院の役割など医療行政や制度、医療の担い手としての分担を考え、社会貢献の将来的ビジョンを実現することを目標とする。		
授業計画	1	柔道整復師の歴史と法の沿革	
	2	柔道整復師法総則（柔道整復業・免許など）	
	3	柔道整復師法総則（免許要件・免許証など）	
	4	指定登録・試験期間と柔道整復師国家試験	
	5	柔道整復師法業務	
	6	柔道整復師法業務	
	7	柔道整復師法施術所	
	8	柔道整復師法施術所	
	9	柔道整復師法雑則	
	10	柔道整復師法雑則	
	11	医療法	
	12	医療法	
	13	医事法規	
	14	医師法規	
	15	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野, 専門分野		
教育内容	保険医療福祉と柔道整復の理念, 柔道整復実技		
講義名	柔道・柔整柔道実技		
講義方法	講義・実技		
単位数	3単位		
時間数	75時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師・全日本柔道連盟公認指導者 柔道整復師として接骨院等で患者症例をととして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて講義し、臨床的実技を教授する。また全日本柔道連盟公認指導者として各道場での柔道指導の実務経験を活用し、安全対策をとり柔道実技を教授する。		

講義内容・目標	柔道の歴史・基本理念・技・礼法・審判規定についての知識を修得する。・柔道についての理念や創設者、礼法、技名、ルールについて理解することを目標とする。		
	柔道実技の基本・基礎トレーニング・体操・外傷の発生などの知識を修得する。・柔道の講義を通じ先人が築き上げた、柔道整復師としての現在の位置付けを理解し“礼に始まり礼に終わる”という人間形成を目指し社会生活に役立つ柔道整復師の基礎を培うことを目標とする。		
授業計画	柔道	柔整柔道実技	
	1 柔道の歴史 2 柔道の理念 3 怪我と予防 4 礼法 5 技術解説（立技） 6 技術解説（立技） 7 技術解説（寝技） 8 ルール（基本）	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	体操の方法 柔道の概要（教科書）柔道着の着方取り扱い等（柔道着規定含む） 礼法、基本姿勢 基本トレーニング 基本トレーニング 怪我の発生機序 怪我の予防と対策 体捌き、崩し、後受け身 横受け身、前受け身、前回り受け身 前回り受け身（移動、応用） 前回り受け身（移動、応用） 投げ技：足技：出足払い支釣込足 投げ技：足技：大外刈・大内刈 投げ技：腰技：大腰 投げ技：手技：背負投 投げ技：手技：双手背負投・腰技：払腰 投げ技：まとめ、約束乱取り練習 寝技：攻め方、守り方 寝技：連続技：立ち技→寝技 寝技：抑込技 関節技 腕拉十字固、腕絡等 寝技：連続技：抑え込技→抑込技 抑え込技→絞技 抑え込技→関節技 投の形：浮落の基本的動作 投の形：浮落の基本的動作 投の形：浮落の基本的動作 投の形：浮腰の基本的動作 投の形：浮腰の基本的動作 投の形：浮腰の基本的動作 投の形：送足払の基本的動作 投の形：送足払の基本的動作 投の形：送足払の基本的動作

成績評価	筆記試験 学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学		
講義名	柔整総論		
授業方法	講義		
単位数	4単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	<p>損傷の力学、痛みの基礎、各組織の損傷、診察、治療法、説明と同意、医師との連携の知識を修得する。・柔道整復学の基礎となる総論を学ぶことにより各組織の損傷や痛みのメカニズム、骨折や脱臼、軟部組織損傷について広く理解し、知識を身につけることを目標とする。</p>		
授業計画	1	人体に加わる力	
	2	損傷時に加わる力	
	3	痛みの基礎	
	4	痛みの基礎	
	5	各組織の損傷（骨の損傷）	
	6	各組織の損傷（骨の損傷）	
	7	各組織の損傷（骨の損傷）	
	8	各組織の損傷（骨の損傷）	
	9	各組織の損傷（骨の損傷）	
	10	各組織の損傷（骨の損傷）	
	11	各組織の損傷（関節の損傷）	
	12	各組織の損傷（関節の損傷）	
	13	各組織の損傷（関節の損傷）	
	14	各組織の損傷（関節の損傷）	
	15	各組織の損傷（関節の損傷）	
	16	各組織の損傷（関節の損傷）	
	17	各組織の損傷（筋の損傷）	
	18	各組織の損傷（筋の損傷）	
	19	各組織の損傷（筋の損傷）	
	20	各組織の損傷（腱の損傷）	
	21	各組織の損傷（腱の損傷）	
	22	各組織の損傷（腱の損傷）	
	23	各組織の損傷（末梢神経の損傷）	
	24	各組織の損傷（末梢神経の損傷）	
	25	各組織の損傷（末梢神経の損傷）	
	26	各組織の損傷（末梢神経の損傷）	
	27	診察	
	28	治療法	
	29	外傷予防	
	30	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学, 柔道整復実技		
講義名	柔整各論・柔整実技		
授業方法	講義・実技		
単位数	2単位		
時間数	45時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	<p>治療法、外傷予防、外傷保存療法の経過及び治療の判定などの知識を修得する。・各損傷の特徴を理解し、実技に反映できるよう修得する。また、国家試験にも多数出題される範囲となるため、資格取得に必要な知識を修得する。治療法、外傷予防、外傷保存療法の経過および治療の判定などを行える知識を身につけることを目標とする。</p>		
	<p>運動器系の疼痛に対する施術、肩部の痛みを訴える患者の診察、指導管理などの技能を修得する。・各損傷の特徴を理解し、実技に反映できるよう修得する。また、国家試験にも多数出題される範囲となるため、資格取得に必要な知識を修得することを目標とする。</p>		
授業計画	柔整各論(I)		柔整実技(I)
	1	骨折の整復法	1 固定道具の作成
	2	脱臼の整復法	2 固定道具の作成
	3	固定法	3 固定道具の作成
	4	手技療法・運動療法	4 固定道具の装着
	5	物理療法	5 固定道具の装着
	6	指導管理	6 固定道具の装着
	7	外傷予防	7 物理療法の実際
	8	外傷予防	8 物理療法の実際
			9 運動器系の疼痛を訴える患者の施術
			10 運動器系の疼痛を訴える患者の施術
			11 肩部の痛みを訴える患者の診察をするときの考え方
			12 肩部の痛みを訴える患者の診察をするときの考え方
			13 総合復習
			14 総合復習
			15 総合復習

成績評価	筆記試験 学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学, 柔道整復実技		
講義名	柔整各論・柔整実技		
授業方法	講義・実技		
単位数	2単位		
時間数	45時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	鎖骨・上腕部の損傷の知識修得をする。・各損傷の特徴を理解し、実技に反映できるよう修得する。また、国家試験にも多数出題される範囲となるため、資格取得に必要な知識を修得することを目標とする。		
	鎖骨・上腕骨の損傷、外科頸骨折、肩鎖関節脱臼の実技技能を修得する。・各損傷の特徴を理解し、整復と固定について修得することを目標とする。		
授業計画	柔整各論(Ⅱ)		柔整実技(Ⅱ)
	1	鎖骨骨折	1 鎖骨骨折の整復
	2	胸鎖関節脱臼・肩鎖関節脱臼	2 鎖骨骨折の整復
	3	肩甲骨骨折	3 鎖骨骨折の整復
	4	上腕骨骨頭骨折・解剖頸骨折	4 鎖骨骨折の固定
	5	上腕骨外科頸骨折	5 鎖骨骨折の固定
	6	上腕骨大結節単独骨折・小結節単独骨折	6 鎖骨骨折の固定
	7	上腕骨近位骨端線離開	7 肩鎖関節脱臼の整復
	8	まとめ	8 肩鎖関節脱臼の整復
			9 肩鎖関節脱臼の整復
			10 肩鎖関節脱臼の整復固定
			11 肩鎖関節脱臼の整復固定
			12 肩鎖関節脱臼の整復固定
			13 総合復習
			14 総合復習
			15 総合復習
成績評価	筆記試験 学修成果評価		
評価基準	60点以上合格(100点満点)		

分野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学, 柔道整復実技		
講義名	柔整各論・柔整実技		
授業方法	講義・実技		
単位数	2単位		
時間数	45時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	頭部・体幹損傷の知識を修得する。・各損傷について特徴を説明することができる。		
	頭部・体幹損傷の技能を修得する。・損傷について状況把握をしたうえで説明できる。柔道整復師が対応できる損傷か、医科への転送が必要なのかの判断ができることを目標とする。		
授業計画	柔整各論(Ⅲ)		柔整実技(Ⅲ)
	1	頭部、顔面部の損傷	1 頭部と顔面部の体表解剖
	2	頭部、顔面部の損傷	2 頭部と顔面部の立体把握
	3	頭部、顔面部の損傷	3 頭部損傷への対応方法
	4	頸部の損傷	4 顎関節脱臼
	5	頸部の損傷	5 顎関節脱臼
	6	胸・背部の損傷	6 包帯の使用法と顎関節脱臼
	7	胸・背部の損傷	7 体幹部の体表解剖
	8	腰部の損傷	8 体幹部の立体把握
			9 肋骨骨折
			10 肋骨骨折
			11 テーピングの使用法と肋骨骨折
			12 テーピングの使用法と肋骨骨折
			13 損傷の鑑別診断
			14 損傷の鑑別診断
			15 損傷の鑑別診断
成績評価	筆記試験 学修成果評価		
評価基準	60点以上合格(100点満点)		

分野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学, 柔道整復実技		
講義名	柔整各論・柔整実技		
授業方法	講義・実技		
単位数	5単位		
時間数	105時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	1年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師 柔道整復師として接骨院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて講義し、臨床的実技を教授する。		

講義内容・目標	上腕部の損傷の知識を修得する。・上腕部の損傷から肘部損傷、前腕部損傷について理解し、その知識を修得することを目標とする。		
	上腕部の損傷の技能を修得する。・上腕部の損傷から肩関節の軟部組織損傷、上腕部遠位部の骨折に対し必要な技能を理解し修得することを目標とする。		
授業計画	柔整各論(IV)		柔整実技(IV)
	1	肩関節脱臼	1 肩関節脱臼
	2	肩関節脱臼	2 肩関節脱臼
	3	肩関節脱臼	3 肩関節脱臼
	4	肩関節の軟部組織損傷	4 肩関節脱臼
	5	肩関節の軟部組織損傷	5 肩関節脱臼
	6	肩関節の軟部組織損傷	6 肩関節脱臼
	7	肩関節の軟部組織損傷	7 肩関節脱臼
	8	肩関節部の注意すべき疾患	8 肩関節脱臼
	9	上腕部の解剖と機能	9 肩関節脱臼
	10	上腕部の解剖と機能	10 肩関節脱臼
	11	上腕骨骨幹部骨折	11 肩関節の軟部組織損傷
	12	上腕骨骨幹部骨折	12 肩関節の軟部組織損傷
	13	上腕部の軟部組織損傷	13 肩関節の軟部組織損傷
	14	上腕部の軟部組織損傷	14 肩関節の軟部組織損傷
	15	上腕部の注意すべき疾患	15 肩関節の軟部組織損傷
	16	肘関節部の解剖と機能	16 肩関節の軟部組織損傷
	17	肘関節部の解剖と機能	17 肩関節の軟部組織損傷
	18	上腕骨遠位部の骨折	18 肩関節の軟部組織損傷
	19	上腕骨遠位部の骨折	19 肩関節の軟部組織損傷
	20	上腕骨遠位部の骨折	20 肩関節の軟部組織損傷
	21	前腕骨近位部の骨折	21 上腕骨遠位部の骨折
	22	前腕骨近位部の骨折	22 上腕骨遠位部の骨折
	23	前腕骨近位部の骨折	23 上腕骨遠位部の骨折
			24 上腕骨遠位部の骨折
			25 上腕骨遠位部の骨折
			26 上腕骨遠位部の骨折
			27 上腕骨遠位部の骨折
			28 上腕骨遠位部の骨折
			29 上腕骨遠位部の骨折
			30 上腕骨遠位部の骨折

成績評価	筆記試験 学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	臨床治療実技		
授業方法	実 技		
単位数	1 単位		
時間数	30 時間		
学 科	柔道整復学科	配当年次	1 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師 あん摩マッサージ師指圧師		

講義内容・目標	ストレッチ・あん摩・マッサージ・指圧実技を修得する。(関西運動器障害研究会終了認定科目)・手技療法をマスターし、治療現場に置いて即戦力となる力を付けることを目標とする。		
授業計画	臨床治療実技 (I)		
	1	ストレッチ・あん摩・マッサージ・指圧とは (総論)	
	2	各実技に関係する筋、血管、神経と禁忌	
	3	体幹のストレッチ	
	4	上肢のストレッチ	
	5	下肢のストレッチ	
	6	上肢のマッサージ	
	7	下肢のマッサージ	
	8	体幹のあん摩	
	9	上肢のあん摩	
	10	下肢のあん摩	
	11	体幹の指圧	
	12	上肢・下肢の指圧	
	13	症状別の施術	
	14	症状別の施術	
	15	まとめ	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60 点以上合格 (100 点満点)

分野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤, 人間と生活		
講義名	情報科学		
授業方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験			

講義内容・目標	PC、Excel、Wordの知識を修得する。・コンピューターを社会生活の中で正しく活用していくための基礎知識を身につけることを目標とする。		
授業計画	情報科学 (I)		
	1	コンピューターの概要	
	2	コンピューターの概要	
	3	ハードウェア基礎	
	4	ハードウェア基礎	
	5	モラル等	
	6	モラル等	
	7	Excelの講習	
	8	Excelの講習	
	9	Wordの講習	
	10	Wordの講習	
	11	パソコンの活用方法等	
	12	パソコンの活用方法等	
	13	課題製作等	
	14	課題製作等	
	15	課題製作等	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基礎, 人間と生活		
講義名	情報科学		
授業方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験			

講義内容・目標	療養費受領委任と保険請求、カルテ、レセプト、社会保障制度の知識を修得する。・療養費の支給基準を詳細に解説しながら、保険請求方法の基礎知識を実務レベルで修得します。また各種健康保険制度の成り立ち・仕組みを踏まえながら、実際の施術録・レセプト用紙を使用し、患者からのサインの貰い方、問診の仕方などを学びます。更に最近の保険者の動向、対保険者への対応ノウハウを知ることにより、卒業後の開業にも即対応できる力を養うことを目標とする。		
授業計画	情報科学(Ⅱ)		
	1	保険請求について	
	2	柔道整復師の施術	
	3	柔道整復師の施術	
	4	柔道整復師の施術に係る療養費の算定基準	
	5	柔道整復師の施術に係る療養費の算定基準	
	6	保険制度・健康保険法の改正について	
	7	保険制度・健康保険法の改正について	
	8	受付業務・施術録の記載・整備事項	
	9	受付業務・施術録の記載・整備事項	
	10	施術録の記載・整備事項	
	11	カルテ計算宿題解答、カルテ計算	
	12	レセプト(療養費支給申請書)について	
	13	レセプト(療養費支給申請書)について	
	14	団体ごとの特徴・保険者の取り組み	
	15	集団指導・個別指導について保険請求の実情・患者照会について	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	基礎分野		
教育内容	科学的思考の基盤, 人間と生活		
講義名	医療経営学		
授業方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	税理士		

講義内容・目標	<p>施術所の経営に必要な会計、納税などの知識を修得する。・講義の目標は、ただ単に知識を暗記するのではなく、経営判断の指標として簿記・会計を用いることが出来るよう、簿記・会計の理解を深めていただくことと、税務申告書・事業計画書・資金繰り表の作成、開業時の準備等、経営者として必要な知識の修得を目標とする。</p>		
授業計画	1	経営についての理解	
	2	経営についての理解	
	3	勘定科目の理解	
	4	勘定科目の理解	
	5	仕訳の理解	
	6	仕訳の理解	
	7	決算処理の理解	
	8	決算処理の理解	
	9	決算書の作成	
	10	決算書の作成	
	11	税務申告書の作成	
	12	事業計画書の作成	
	13	事業計画書の作成	
	14	資金繰り表の作成	
	15	開業準備について	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	運動学		
授業方法	講義		
単位数	1単位		
時間数	15時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	理学療法士		

講義内容・目標	運動・力学・神経構造・運動感覚・反射・姿勢・歩行・運動発達の知識を修得する。(関西運動器障害研究会終了認定科目)・解剖学および生理学で得た知識から、身体運動の理解を目標とする。		
授業計画	運動学 (I)		
	1	運動学の目的、運動の表し方、身体運動と力学	
	2	身体運動と力学	
	3	運動器の構造と機能	
	4	運動器の構造と機能、神経の構造と機能	
	5	運動感覚、反射と随意運動	
	6	姿勢、歩行	
	7	歩行	
	8	運動発達、運動学習	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	人体の構造と機能		
講義名	運動学		
授業方法	講義		
単位数	1単位		
時間数	15時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	柔道整復師の施術に必要な運動器系特に筋肉を解剖学的または生理学的な理解の上でさらに運動的内容を理解し体の部位ごと、または運動方向、支配神経別の知識の修得をする。(関西運動器障害研究会終了認定科目)・柔道整復師として必要な筋肉の走行、運動方向及び触診等を修得することを目標とする。		
授業計画	運動学(Ⅱ)		
	1	上肢帯の運動(上肢帯の筋、鎖骨の運動、肩甲骨の運動)	
	2	肩関節の運動(肩関節の筋、肩関節の運動)	
	3	肘関節・前腕の運動(肘関節の筋、肘関節・前腕の運動)	
	4	手関節・手の運動(手関節・指の筋、手関節・手の運動)	
	5	股関節の運動(股関節の筋、股関節の運動)	
	6	膝関節の運動(膝関節の筋、膝関節の運動)	
	7	足関節の運動(足部の筋、足関節の運動)	
	8	体幹・脊柱・胸郭の運動(体幹・脊柱・胸郭の筋、体幹・脊柱・胸郭の運動)	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	病理学概論		
授業方法	講義		
単位数	4単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験			

講義内容・目標	<p>生体を構成する細胞・組織の構成や疾病の原因、分類を理解しその病変、炎症・腫瘍などの知識を修得する。・柔道整復師に求められる病理学の知識としては、いわゆる病理解剖や顕微鏡で観察する病理組織の変化といったものではない。近年パラメディカルの教育現場において「病理学」は患者さんを目の前にして今の症状がどのような原因、要因で発生してきて、現在どのような状態にあるのかを把握する能力の養成が求められているということである。こうした考え方をもとに、常に患者さんを念頭に置き、その病態を把握できるための知識を修得することを目標とする。また、教科書では「運動器の病理」は付録としてしか扱われていないが、柔道整復師というまでもなく骨、筋肉のスペシャリストであるべきであるとの考えから、運動器の病理については特に重点をおく。</p>		
授業計画	1	病理学の意義	
	2	病理学の意義	
	3	疾病の一般	
	4	疾病の一般	
	5	疾病の一般	
	6	退行性病変	
	7	退行性病変	
	8	退行性病変	
	9	循環障害	
	10	循環障害	
	11	循環障害	
	12	進行性病変	
	13	進行性病変	
	14	進行性病変	
	15	炎症	
	16	炎症	
	17	炎症	
	18	免疫異常・アレルギー	
	19	免疫異常・アレルギー	
	20	免疫異常・アレルギー	
	21	腫瘍	
	22	腫瘍	
	23	腫瘍	
	24	病因	
	25	病因	
	26	病因	
	27	先天異常	
	28	先天異常	
	29	運動器の病理	
	30	運動器の病理	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	リハビリテーション医学		
授業方法	講義		
単位数	4単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	理学療法士 理学療法士として病院等で患者症例をとおして取得した臨床実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	リハビリテーションの評価と治療・実際の知識を修得する。・リハビリテーション医療の概念や各疾患や障害に対する理学療法アプローチを理解することを目標とする		
授業計画	リハビリテーション医学（I）		
	1	リハビリテーションの理念	
	2	リハビリテーションの理念	
	3	リハビリテーションの対象と障害者の実態	
	4	リハビリテーションの対象と障害者の実態	
	5	障害の階層とアプローチ	
	6	障害の階層とアプローチ	
	7	リハビリテーション評価学	
	8	リハビリテーション評価学	
	9	リハビリテーション評価学	
	10	リハビリテーション障害学と治療学	
	11	リハビリテーション障害学と治療学	
	12	リハビリテーション障害学と治療学	
	13	リハビリテーション医学の関連職種	
	14	リハビリテーション医学の関連職種	
	15	リハビリテーション医学の関連職種	
	16	リハビリテーション治療技術	
	17	リハビリテーション治療技術	
	18	リハビリテーション治療技術	
	19	高齢者のリハビリテーション	
	20	高齢者のリハビリテーション	
	21	高齢者のリハビリテーション	
	22	運動器のリハビリテーション	
	23	運動器のリハビリテーション	
	24	運動器のリハビリテーション	
	25	運動器のリハビリテーション	
	26	運動器のリハビリテーション	
	27	リハビリテーションと福祉	
	28	リハビリテーションと福祉	
	29	障害者スポーツ	
	30	障害者スポーツ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	リハビリテーション医学		
授業方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	高齢者の運動機能の維持・回復（機能訓練・機能訓練指導）のリハビリテーションの知識を修得する。・発達と老化について理解し、高齢者の運動機能の維持・機能訓練、ロコモティブシンドローム等の知識を身につけることを目標とする。		
授業計画	リハビリテーション医学（Ⅱ）		
	1	日本の高齢者をとりまく現状について	
	2	介護保険制度における柔道整復師の役割とは	
	3	機能訓練指導員とは	
	4	介護関連職種およびチームケアについて	
	5	老化に伴う心と身体の変化および日常生活の変化について	
	6	ロコモティブシンドロームについて	
	7	高齢者に特徴的な疾患について	
	8	高齢者に特徴的な疾患について	
	9	機能訓練指導員として高齢者を介護するために必要な知識とは	
	10	高齢者介護と ICF について	
	11	認知症とは（症状の特徴）	
	12	認知症の予防について	
	13	介護保険について	
	14	地域包括ケアシステムについて	
	15	介護の過程について	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	一般臨床医学		
授業方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	医師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	疾患別の疾病の知識修得をする。・わが国で古くから施術として国民医療に貢献してきた柔道整復学を学ぶものが、臨床医学の中心であり基幹である内科学を学び、その施術にあたる際、実力を一層発揮することを目標とする。		
授業計画	一般臨床医学（内科）		
	1	呼吸器疾患	
	2	循環器疾患	
	3	消化器疾患	
	4	肝・胆・膵疾患	
	5	代謝・栄養疾患	
	6	内分泌疾患	
	7	血液・造血器疾患	
	8	腎・尿路疾患	
	9	神経疾患	
	10	感染症・性病	
	11	リウマチ性疾患	
	12	アレルギー性疾患	
	13	免疫不全	
	14	環境要因による疾患	
	15	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	一般臨床医学		
授業方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	医師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活かし、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	診察・検査法の医学知識修得を目的とする。・西洋医学は、科学技術の恩恵を受けて発展してきている。病理学的背景に裏付けられた疾患分類は疾患の把握が容易であり理解しやすい。柔道整復術を学ぶものが西洋医学の考え方を学び、その長所短所を十分理解して施術にあたるならば、その実力を一層発揮し得る。疾患の科学的観察力を養い、また健常及び疾病の病態を理解することを目標とする。		
授業計画	一般臨床医学（診察）		
	1	診察の意義	
	2	診察の進め方	
	3	問診	
	4	視診	
	5	打診	
	6	聴診	
	7	触診	
	8	生命徴候	
	9	知覚検査	
	10	反射検査	
	11	代表的な臨床症状	
	12	代表的な臨床症状	
	13	検査法（生命徴候の測定）	
	14	検査法（生理検査）	
	15	検査法（検体検査）	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	保健医療福祉と柔道整復の理念		
講義名	衛生学・公衆衛生学		
授業方法	講義		
単位数	4単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験			

講義内容・目標	<p>公衆衛生学活動、健康、予防と管理、消毒、環境、保険、衛生行政、医療倫理、疫学の衛生学の知識を修する。・人類の歴史の初めの頃から、人類はどんな行動や環境が、どのように健康を害することがあるかを経験的に知っていて、「衛生」を守る方法を伝えてきた。医学の父といわれる古代ギリシャのヒポクラテスの著書には、空気や水、その土地の特有の環境が病気と強いかわりのあることや、現在も普通に見られる多くの伝染病について記されている。人類はその歴史の始まりとともに健康に関する重大な問題と直面してきた。始めは、経験的にそれに対処するだけであったが、「公衆衛生」という考え方が生まれてからは、その問題に影響するさまざまな要因を検討して、医学や生物学の知識はもちろん、理学、工学や法学、社会学などの広い範囲の科学の成果を集めてその課題の解決法を探り、実行に移す方法として法や制度を作るなどして対処しようとしている。衛生学・公衆衛生学はこうした全体を通じて、社会としての健康の条件を実現させることを目標とする。</p>		
授業計画	1	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	
	2	衛生学・公衆衛生学の歴史と公衆衛生活動	
	3	健康の概念	
	4	健康の概念	
	5	疾病予防と健康管理	
	6	疾病予防と健康管理	
	7	感染症の予防	
	8	感染症の予防	
	9	消毒	
	10	消毒	
	11	消毒	
	12	環境保健	
	13	環境保健	
	14	生活環境・食品衛生活動	
	15	生活環境・食品衛生活動	
	16	母子保健	
	17	母子保健	
	18	学校保健	
	19	学校保健	
	20	産業保健	
	21	産業保健	
	22	成人・高齢者保健	
	23	成人・高齢者保健	
	24	精神保健	
	25	精神保健	
	26	地域保健と国際保健	
	27	地域保健と国際保健	
	28	衛生行政と保健医療の制度	
	29	医療の倫理と安全の確保	
	30	疫学	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野, 専門分野		
教育内容	保険医療福祉と柔道整復の理念, 柔道整復実技		
講義名	柔道・柔整柔道実技		
授業方法	講義・実技		
単位数	3単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師、全日本柔道連盟公認指導者		

講義内容・目標	柔道理念・競技の特性・安全確認・技・審判規定の知識及び技能を修得する。・柔道の歴史や理念、柔道競技の特性や安全確認、各技の技術、形、ルール(審判規定)などについて柔道整復師の起源である柔道を理解することを目標とする。		
	柔道実技の展開・強化トレーニング・体操、運動療法・外傷の発生と予防の実技などの知識と技能を修得する。・礼節をわきまえ、医療人としての自覚をもち、投の形(手技、腰技、足技)の実技を修得するとともに、競技特性を理解しリスク管理と応急処置、怪我に対しての運動療法について理解することを目標とする。		
授業計画	柔道		柔整柔道実技
	1	柔道の歴史	1 基本的技能・礼法、基本姿勢の復習
	2	柔道の理念	2 基本的技能・前回り受け身復習
	3	柔道の理念	3 強化トレーニング方法
	4	競技の特性	4 強化トレーニング方法
	5	競技の特性	5 投の形・背負投の基本的動作(投げ方、受け方)
	6	安全確認	6 投の形・背負投の基本的動作(投げ方、受け方)
	7	安全確認	7 投の形・払腰の基本的動作(投げ方、受け方)
	8	技術解説	8 投の形・払腰の基本的動作(投げ方、受け方)
	9	技術解説	9 投の形・支釣込足の基本的動作(投げ方、受け方)
	10	技術解説	10 投の形・支釣込足の基本的動作(投げ方、受け方)
	11	ルール(国内審判規定)	11 投げ技の対人的技能・約束乱取り練習
	12	ルール(国際審判規定)	12 投げ技の対人的技能・約束乱取り練習
	13	形(理合い)	13 リスク管理
	14	形(理合い)	14 応急処置
	15	形(理合い)	15 運動療法

成績評価	筆記試験 学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学, 柔道整復実技		
講義名	柔整各論・柔整実技		
授業方法	講義・実技		
単位数	3単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	肘関節部の脱臼、前腕部、手関節部の損傷の知識を修得する。・柔道整復師として骨折、脱臼、軟部組織損傷に対し、知識と理解を深め、適切な整復法、固定法を学び、また柔道整復師の適応内の外傷なのか判断ができる能力を得ることを目標とする。		
	肘関節部の脱臼、前腕部、手関節部の損傷に対する技能を修得する。・コーレス骨折、肘関節脱臼、肘内障等に対する知識・技能の修得を目標とする。		
授業計画	柔整各論(V)		柔整実技(V)
	1	肘関節部の脱臼	1 コーレス骨折(診断)
	2	肘関節部の脱臼	2 コーレス骨折(整復法)
	3	肘関節部の軟部組織損傷	3 コーレス骨折(整復法)
	4	前腕部の機能と解剖	4 コーレス骨折(固定法)
	5	前腕部骨幹部の骨折	5 コーレス骨折(固定法)
	6	前腕部骨幹部の骨折	6 肘関節脱臼(診断)
	7	前腕部の軟部組織損傷	7 肘関節脱臼(整復法)
	8	前腕部の軟部組織損傷	8 肘関節脱臼(整復法)
	9	手関節部の機能と解剖	9 肘関節脱臼(固定法)
	10	前腕骨遠位端部骨折	10 肘関節脱臼(固定法)
	11	前腕骨遠位端部骨折	11 肘内障(診断)
	12	手根骨部の骨折	12 肘内障(整復法)
	13	手根骨部の骨折	13 肘内障(整復法)
	14	手関節部の脱臼	14 各種外傷の鑑別診断
	15	手関節部の軟部組織損傷	15 各種外傷の鑑別診断

成績評価	筆記試験 学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学, 柔道整復実技		
講義名	柔整各論・柔整実技		
授業方法	講義・実技		
単位数	3単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	骨盤部・股関節部・大腿部から大腿遠位部損傷の診察、整復、固定、治療の知識を修得する。・各損傷の原理を理解し、下肢損傷に対し診断、整復、固定、後療を実施するための理論を学修し、臨床上必要な知識修得と柔道整復師国家試験合格に必要な知識を修得することを目標とする。		
	骨盤部・股関節部・大腿部から大腿遠位部損傷の診察、整復、固定、治療の技能を修得する。・模擬実技として骨折や脱臼の整復、各種徒手検査法を修得する。また、自分で固定に必要な用具を作成しその方法を修得する。臨床上の重要なポイントについて理解する。整骨院・救護等実際の症例に合わせ各対応可能な実技を修得することを目標とする。		
授業計画	柔整各論(VI)		柔整実技(VI)
	1	骨盤部の損傷(骨盤骨単独骨折)	1 下肢の体表解剖と触診
	2	骨盤部の損傷(骨盤骨輪骨折)	2 股関節部の損傷(大腿骨近位端部骨折)
	3	股関節部の損傷(大腿骨近位端部骨折)	3 股関節部の損傷(股関節脱臼)
	4	股関節部の損傷(大腿骨近位端部骨折)	4 大腿部の損傷(大腿骨骨幹部骨折)
	5	股関節部の損傷(股関節脱臼)	5 大腿部の軟部組織損傷(大腿屈筋群肉離れ)
	6	股関節の軟部組織損傷	6 大腿部の軟部組織損傷(大腿伸筋群筋損傷)
	7	股関節の軟部組織損傷	7 膝関節部の損傷(膝蓋骨骨折)
	8	大腿部の損傷(大腿骨骨幹部骨折)	8 膝関節部の損傷(膝蓋骨脱臼)
	9	大腿部の損傷(軟部組織損傷)	9 膝関節部の軟部組織損傷(半月板損傷)
	10	膝関節部の損傷(大腿骨遠位端部骨折)	10 膝関節部の軟部組織損傷(半月板損傷)
	11	膝関節部の損傷(膝関節脱臼)	11 膝関節部の軟部組織損傷(側副靭帯損傷)
	12	膝関節部の損傷(膝蓋骨骨折)	12 膝関節部の軟部組織損傷(前十字靭帯損傷)
	13	膝関節部の損傷(膝蓋骨脱臼)	13 膝関節部の軟部組織損傷(前十字靭帯損傷)
	14	膝関節部の軟部組織損傷(半月・靭帯損傷)	14 膝関節部の軟部組織損傷(後十字靭帯損傷)
	15	膝関節部の軟部組織損傷(半月・靭帯損傷)	15 膝関節部の軟部組織損傷(後十字靭帯損傷)

成績評価	筆記試験 学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学, 柔道整復実技		
講義名	柔整各論・柔整実技		
授業方法	講義・実技		
単位数	3単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	下腿部・足関節部・足趾部の損傷の診察、整復、固定、治療などの知識を修得する。・下腿部の骨折・足部の軟部組織損傷などに対して診察、整復、固定、治療などに必要な知識を身につけ、柔道整復師として、また資格取得に必要な知識を修得することを目標とする。		
	下腿部・足関節部・足趾部の損傷の診察、整復、固定、治療などの技能を修得する。・下腿部の骨折・足部の軟部組織損傷などに対して診察、整復、固定、治療などに必要な知識と技術を身につけことを目標とする。		
授業計画	柔整各論(VII)		柔整実技(VII)
	1	解剖(大腿部～足趾の筋の起始・停止、神経、骨の名称・構造)	1 下腿用クラーメル、副子、枕子の作製
	2	脛骨顆部骨折、脛骨顆間隆起骨折、脛骨粗面骨折、腓骨頭骨折	2 下腿骨幹部骨折固定(固定肢位・材料の確認・介助法)
	3	脛骨・腓骨単独骨折、脛腓両骨骨幹部骨折	3 下腿骨幹部骨折固定(固定術・固定後の確認動作)
	4	下腿骨顆上骨折、下腿骨疲労骨折、過労性脛部(シンスプリント)	4 下腿三頭筋肉離れ検査法(問診・触診)
	5	アキレス腱炎、アキレス腱周囲炎、アキレス腱断裂	5 下腿三頭筋肉離れ検査法(介助法・検査動作)
	6	下腿三頭筋肉離れ、コンパートメント症候群、下腿骨果部骨折	6 足関節外側靭帯損傷検査法(問診・触診)
	7	距骨骨折、踵骨骨折、舟状骨骨折、立方骨骨折、楔状骨骨折	7 足関節外側靭帯損傷検査法(介助法・検査動作)
	8	足関節外・内側靭帯損傷、脛腓靭帯結合損傷、二分靭帯損傷	8 アキレス腱断裂固定(固定肢位・材料の確認・介助法)
	9	距骨滑車の骨軟骨損傷、足根洞症候群、腓骨筋腱脱臼、衝突性外骨腫	9 アキレス腱断裂固定(固定術・固定後の確認動作)
	10	三角骨障害、中足骨骨折(基部、骨幹部、疲労骨折)	10 足関節外側靭帯損傷固定(固定肢位・材料の確認・介助法)
	11	趾骨骨折、種子骨障害、ショパール関節損傷、	11 足関節外側靭帯損傷固定(固定術・固定後の確認動作)
	12	リスフラン関節損傷	12 足関節外側靭帯損傷テーピング固定(バスケットウェーブテープ)(固定肢位・材料の確認・介助法)
	13	中足趾節関節脱臼、趾節間関節脱臼、セーバー病、アキレス腱滑液胞炎	13 足関節外側靭帯損傷テーピング固定(バスケットウェーブテープ)(固定術・固定後の確認動作)
	14	有痛性外脛骨、第1ケーラー病、第2ケーラー病、踵骨棘及び足底腱膜炎	14 足関節外側靭帯損傷テーピング固定(フィギュアエイト・ヒールロックテープ)(固定肢位・材料の確認・介助法)
	15	足根管症候群、モートン病、扁平足障害、外反母趾、強剛母趾	15 足関節外側靭帯損傷テーピング固定(フィギュアエイト・ヒールロックテープ)(固定術・固定後の確認動作)

成績評価	筆記試験 学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	柔整総合学習		
授業方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	医療面接や専門基礎や専門科目で学んだ知識・技能を体系的に修得する。・臨床実習のために必要な知識と技術を身につけることを目標とする。		
授業計画	柔整総合学習 (I)		
	1	解剖学 (総論)	
	2	" (上肢の骨・筋)	
	3	" (下肢の骨・筋)	
	4	生理学 (総論)	
	5	" (栄養と代謝)	
	6	" (消化と吸収)	
	7	" (体温とその調節)	
	8	" (高齢者の生理学的特徴・変化)	
	9	" (競技者の生理学的特徴・変化)	
	10	外傷について (総論)	
	11	胸部の損傷	
	12	上肢帯部の損傷	
	13	肩鎖関節の損傷	
	14	肩関節部の損傷	
	15	上腕部の損傷	
	16	肘関節部の損傷	
	17	前腕部の損傷	
	18	手指部の損傷	
	19	大腿部の損傷	
	20	膝関節部の損傷	
	21	下腿部の損傷	
	22	足関節部の損傷	
	23	身体の生理的反応	
	24	医療面接	
	25	臨床実習前試験の学習	
	26	臨床実習前試験の学習	
	27	臨床実習前試験の学習	
	28	スポーツの知識	
	29	アスリハの知識	
	30	スポーツ医学全般の知識	

成績評価	筆記試験・臨床実習前施術試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	臨床治療実技		
授業方法	実 技		
単位数	1 単位		
時間数	30 時間		
学 科	柔道整復学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	競技者の外傷予防、スポーツマッサージ技術などを修得する。(関西運動器障害研究会認定科目)・手技療法 の中心となるマッサージの理論、実技の理論の熟練度を高め、スポーツ外傷、障害の治療、アフターケア、ま たはコンディショニング等に対応するスポーツマッサージの理論・実技を身に付けることを目標とする。		
授業計画	臨床治療実技 (Ⅱ)		
	1	スポーツマッサージ総論	
	2	スポーツマッサージの歴史	
	3	スポーツマッサージの分類と使い分け	
	4	スポーツマッサージの生体への作用	
	5	スポーツマッサージの行う際の注意事項	
	6	スポーツマッサージ各論	スポーツマッサージ基本手技
	7	〃	各手技(軽擦・揉捏・強擦・圧迫・振せん・運動法)の方法
	8	〃	各手技(軽擦・揉捏・強擦・圧迫・振せん・運動法)の種類
	9	〃	各手技(軽擦・揉捏・強擦・圧迫・振せん・運動法)の作用
	10	関節のスポーツマッサージ	上肢のスポーツマッサージ (手指部・手部・手関節・前腕部・肘関節・前腕部・肩関節部)
	11	〃	下肢のスポーツマッサージ (足指部・足部・足関節・下腿部・膝関節・大腿部・股関節部)
	12	全身のスポーツマッサージ	伏臥位のスポーツマッサージ(頸肩背部・腰仙部・下肢部<後面>)
	13	〃	仰臥位のスポーツマッサージ(下肢部<前面>・上肢部・胸腹部)
	14	スポーツマッサージに併用する手技療法	牽引性(消炎)運動法
	15	〃	その他

成績評価	学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	臨床治療実技		
授業方法	実 技		
単位数	1 単位		
時間数	30 時間		
学 科	柔道整復学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	<p>競技者の外傷予防。スポーツテーピング技術などを修得する。(関西運動器障害研究会認定科目)・スポーツテーピングはスポーツに限らず、柔道整復師が臨床で遭遇するあらゆる運動器疾患において、不可欠な処置のひとつである。各スポーツ傷害のメカニズムを講義し、受傷直後からリコンディショニング期に至るまで、その状態に適応した処置法を実技で指導管理などを身につけることを目標とする。</p>		
授業計画	臨床治療実技(Ⅲ)		
	1	目 的(スポーツテーピング総論)	
	2	実施における注意点(スポーツテーピング総論)	
	3	実施前の知識(スポーツテーピング総論)	
	4	用具の説明(スポーツテーピング総論)	
	5	足 部(外脛骨痛、踵痛) (基本となるテーピング法)	
	6	足関節(足関節内反捻挫) (基本となるテーピング法)	
	7	下腿部(アキレス腱痛、シンスプリント) (基本となるテーピング法)	
	8	膝関節(内側・外側側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、ジャンパー膝) (基本となるテーピング法)	
	9	膝関節(内側・外側側副靭帯損傷、十字靭帯損傷、ジャンパー膝) (基本となるテーピング法)	
	10	大腿部(肉離れ) (基本となるテーピング法)	
	11	指関節(近位指節間関節損傷、中手指節間関節損傷) (基本となるテーピング法)	
	12	手関節(手関節捻挫) (基本となるテーピング法)	
	13	肘関節(肘関節捻挫) (基本となるテーピング法)	
	14	肩関節(回旋筋腱板損傷、肩鎖関節脱臼) (基本となるテーピング法)	
	15	胸鎖関節(胸鎖関節脱臼) (基本となるテーピング法)	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	包帯実技		
授業方法	実 技		
単位数	1 単位		
時間数	30 時間		
学 科	柔道整復学科	配当年次	2 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	包帯技術・三角巾の技術の修得をする。・柔道整復師として必要な包帯・三角巾の施行と患部の固定が確実にできるようにすることを目標とする。		
授業計画	1	固定の目的、固定材料の種類、巻軸帯の巻き方と注意事項	
	2	基本包帯法（環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯、亀甲帯、麦穂帯）	
	3	指の包帯法（隻指帯、全指帯、不全指帯、指頭包か帯）	
	4	手の包帯法（上行麦穂帯、下行麦穂帯）	
	5	前腕の包帯法（前腕折転帯）	
	6	肘の包帯法（肘離開亀甲帯、集合亀甲帯）	
	7	肩の包帯法（上行麦穂帯、下行麦穂帯）	
	8	上肢の包帯法（上記内容の複合包帯、シーネ等の固定実施）	
	9	冠名包帯法（体幹部 デゾー、ヴェルポー、ジュール包帯法）	
	10	足指、足関節の包帯法（母趾麦穂帯 左右の比較、上行麦穂帯、下行麦穂帯、鏝帯、三節帯及び踵骨亀甲帯）	
	11	下腿の包帯法（下腿折転帯）	
	12	膝の包帯法（膝離開亀甲帯、集合亀甲帯）	
	13	下肢の包帯法（上記内容の複合包帯、シーネ等の固定実施）	
	14	三角巾（畳三角巾、終い三角巾、堤肘三角巾、各種三角巾法）	
	15	総合復習	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	臨床実習		
講義名	臨床実習		
授業方法	臨床実習		
単位数	2単位		
時間数	90時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	<p>施術所実習、救護実習(高体連救護、トレーナー等)・授業で修得した知識、技術を実際の臨床の場において実践することを目標とし、接骨院での実習では、1年生で学んだ内容を元に、二年ではより実践的に、施術所で施術補助の方法を学びます。</p> <p>救護実習(学外)では選手への対応、整復、固定、軟部組織損傷の施術方法、テーピングなどを修得する。</p>								
授業計画	<p>付属臨床施設での実習(見学実習)(45時間:4時間×12回)</p> <p>期間:1~3月</p> <p>管理者の施術補助 コミュニケーションスキルの構築 検査法の適応と方法</p> <p>救護(学外)実習(45時間:8時間×6回)</p> <p>期間:4~3月</p> <table border="0"> <tr> <td>アメリカンフットボールのトレーナー実習</td> <td>負傷原因の把握</td> <td>救急処置の介助</td> </tr> <tr> <td>柔道大会の救護</td> <td>損傷の診断</td> <td>固定等の準備及び補助</td> </tr> </table>			アメリカンフットボールのトレーナー実習	負傷原因の把握	救急処置の介助	柔道大会の救護	損傷の診断	固定等の準備及び補助
アメリカンフットボールのトレーナー実習	負傷原因の把握	救急処置の介助							
柔道大会の救護	損傷の診断	固定等の準備及び補助							

成績評価	臨床実習評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	選択必修		
教育内容	柔道整復術の応用		
講義名	スポーツ認定トレーナー講義		
授業方法	講義		
単位数	1単位		
時間数	15時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	2年
必修・選択区分	選択必修		
実務経験			

講義内容・目標	スポーツ障害や運動器障害に対して予防・治療・予後の指導を実施するうえで、必要なスキルについてコンディショニングから臨床的施術方法までを学修する。講義で学修したスキルを実践できるよう身につけることを目標とする。		
授業計画	1	トップアスリーのコンディショニング ムーブメントに対するトレーニングの組み上げ	
	2	トップアスリーのコンディショニング メカニクから構築するパフォーマンスの向上	
	3	スポーツ現場で使えるコンディショニングテクニク 評価編	
	4	スポーツ現場で使えるコンディショニングテクニク 実技編	
	5	臨床に応用する「牽引性関節運動法」	
	6	臨床に応用する「筋・神経伸展法」	
	7	スポーツ外傷の鑑別と処置	
	8	スポーツ現場で遭遇する外傷	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	整形外科学		
授業方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	医師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活用し、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	<p>運動器の疾患・障害の基礎・診察・検査・治療・関節損傷・スポーツ整形・整形外科疾患別各論の知識を修得する。・整形外科学は骨折・外傷だけでなく、全身の運動器疾患(先天性も含む)を扱う学問であり、その治療にあたっては診断学が重要となります。講義では総論として診断、治療(保存的・観血的)を教科書だけでなく、X線(術前・術後)、MRI・CT及びビデオを見ながらDISCUSSIONし、理解を深めていきます。骨折、外傷などは柔整理論で詳しく取り扱っているので、各論では骨系統疾患、感染症疾患、骨端症、神経・筋系統疾患及び骨・軟部腫瘍などの整形外科特有の疾患の病態について理解することを目標とする。</p>		
授業計画	1	運動器の基礎知識	
	2	整形外科診察法	
	3	整形外科検査法	
	4	整形外科的治療法	
	5	骨・関節損傷総論	
	6	スポーツ整形外科総論	
	7	リハビリテーション総論	
	8	疾患別各論：感染性疾患	
	9	疾患別各論：骨腫瘍	
	10	疾患別各論：軟部腫瘍	
	11	疾患別各論：非感染性軟部・骨関節疾患	
	12	疾患別各論：全身性の骨・軟部疾患	
	13	疾患別各論：骨端症	
	14	疾患別各論：四肢循環障害	
	15	疾患別各論：神経・筋疾患	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	疾病と傷害		
講義名	外科学概論		
授業方法	講義		
単位数	4単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	医師 医師として病院等で患者症例をとおして取得した臨床的実務経験を活かし、具体的な症例を踏まえて教授する。		

講義内容・目標	外科学について総論・各論の知識を修得する。・外科学の範囲は広く、すべてを網羅することは不可能であるが、そのエッセンスとともに、日常診療にて、遭遇する可能性のある代表的疾患について学ぶ。また医療人として、必要である救命処置、患者診察において柔整師が初診する可能性がある疾患（骨折、狭心症、胃腸疾患の放散痛）について理解することを目標とする。		
授業計画	1	総論：損傷	
	2	総論：創傷	
	3	総論：熱傷	
	4	総論：炎症	
	5	総論：外科感染症	
	6	総論：腫瘍	
	7	総論：ショック	
	8	総論：輸血	
	9	総論：輸液	
	10	総論：消毒	
	11	総論：滅菌	
	12	総論：手術	
	13	総論：麻酔	
	14	総論：移植	
	15	総論：免疫	
	16	総論：出血	
	17	総論：止血	
	18	総論：心肺蘇生法	
	19	各論：脳神経外科疾患①	
	20	各論：脳神経外科疾患②	
	21	各論：脳神経外科疾患③	
	22	各論：甲状腺疾患	
	23	各論：頸部疾患	
	24	各論：胸壁疾患	
	25	各論：呼吸器疾患	
	26	各論：心臓疾患	
	27	各論：脈管疾患	
	28	各論：乳腺疾患	
	29	各論：腹部外科疾患	
	30	各論：腹部外科疾患	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	柔道整復術の適応		
講義名	整形外科診断		
授業方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	医師		

講義内容・目標	外科的な処置の必要性・適応と柔道整復術の適応があるのかの判断ができる知識を修得とする。・柔道整復師は今後医療現場において整形外科医や、看護師、理学療法士などとともにチームとして機能しなくてはならない。そのためには医療現場での適否や外傷への対応、判断などの知識を深めることを目標とする。		
授業計画	1	柔道整復術の適否について	
	2	損傷に類似した症状を示す疾患	
	3	損傷に類似した症状を示す疾患	
	4	損傷に類似した症状を示す疾患	
	5	血流障害を伴う疾患	
	6	末梢神経損傷を伴う疾患	
	7	脱臼骨折	
	8	外出血を伴う疾患	
	9	病的骨折および脱臼	
	10	意識障害を伴う損傷	
	11	脊髄症状のある損傷	
	12	呼吸運動障害を伴う損傷	
	13	内臓損傷の合併が疑われる損傷	
	14	高エネルギー外傷	
	15	まとめ	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門基礎分野		
教育内容	社会保障制度		
講義名	社会保障		
授業方法	講義		
単位数	1単位		
時間数	15時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	社会保障制度についての知識を修得する。・柔道整復師に必要な社会保障および基本的倫理観を学び、現場における社会的責任と対応について学ぶことを目標とする。		
授業計画	1	社会保障とは	
	2	社会保障制度とは	
	3	医療保険制度とは	
	4	医療従事者の職業倫理	
	5	柔道整復師に必要な基本的倫理観と患者への対応	
	6	柔道整復師の社会的責任と対応	
	7	医療における情報と責任	
	8	まとめ	

成績評価	学修成果評価		
評価基準	60点以上合格(100点満点)		

分野	専門分野		
教育内容	基礎柔道整復学		
講義名	柔整各論		
授業方法	講義		
単位数	1 単位		
時間数	1 5 時間		
学 科	柔道整復学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	手指部の各論・実技など、柔道整復術適応の臨床的判断、高齢者及び競技者の外傷予防技術を修得する。・遭遇することの多い手指部の損傷を理解することで、施術可能かどうかの判断ができる対応力をも身につけることを目標とする。		
授業計画	柔整各論（Ⅷ）		
	1	中手骨骨折（骨頭骨折、頸部骨折、骨幹部骨折）	
	2	中手骨骨折（基部骨折、ベネット骨折、ローランド骨折）	
	3	手根中手関節脱臼	
	4	基節骨骨折、中節骨骨折（頸部骨折、骨幹部骨折）、掌側板付着部裂離	
	5	末節骨骨折	
	6	中手指節関節脱臼、指節間関節の脱臼	
	7	手部、指部の軟部組織損傷	
	8	施術の適応と外傷予防	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	救急医学		
授業方法	講義		
単位数	1単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師 赤十字救急法指導員		

講義内容・目標	<p>救急医療、災害医療の知識と技能及び柔道整復師として外傷の応急手当について修得する。・柔道整復師は外傷に対する応急処置の担い手として広く活躍している人材であり、救急医療の一端を担い、活用できる資格である。そのためにも救急医療に関する知識を幅広く修得する必要がある。救急医学に関して柔道整復師として最低限知っておかなければならない知識や技術、実際の臨床現場での応用的知識の修得はもちろんのこと、医師や救急救命士など業務範囲内の部分の内容も、自己判断能力を高めるためにも十分理解することを目標とする。</p>		
授業計画	1	総論	
	2	総論	
	3	総論	
	4	症候学	
	5	症候学	
	6	救急蘇生法	
	7	救急蘇生法	
	8	内因性疾患	
	9	内因性疾患	
	10	外因性疾患	
	11	外因性疾患	
	12	特殊救急療法	
	13	特殊救急療法	
	14	救急医事安全管理	
	15	救急医事安全管理	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	臨床各論		
授業方法	講義		
単位数	1単位		
時間数	30時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	運動器触診、物理療法機器の取り扱い、柔道整復術適応の臨床的判断（医療用画像の理解含む）の知識を修得する。・運動器の触診技術、各物理療法機器や取り扱い、X線像の読影、超音波画像装置の使用について学ぶことを目標とする。		
授業計画	臨床各論（I）		
	1	肩関節の触診	
	2	肘関節の触診	
	3	手関節・手部の触診	
	4	膝関節の触診	
	5	足関節・足部の触診	
	6	股関節・骨盤の触診	
	7	物療機器の取り扱いについて	
	8	X・CT線像の概要	
	9	X・CT線像の読影	
	10	MRIの概要	
	11	超音波画像装置の概要	
	12	超音波画像装置の使用	
	13	超音波画像装置の使用	
	14	超音波画像装置の使用	
	15	超音波画像装置の使用	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	臨床各論		
授業方法	講義		
単位数	2単位		
時間数	60時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	身体部位別整形損傷各論の知識を修得する。・柔道整復師は整形外科医と同様に「運動器」の治療を行う。運動器全体の知識すなわち整形外科学全般についても基本的な知識を持っている必要がある。臨床各論Ⅱでは身体部位別各論を中心に学び、柔道整復学と整形外科学の相互理解を目標とする。		
授業計画	臨床各論（Ⅱ）		
	1	身体部位別各論：頸部	
	2	頸部	
	3	身体部位別各論：胸部	
	4	胸部	
	5	身体部位別各論：腰部	
	6	腰部	
	7	身体部位別各論：肩部	
	8	肩甲帯	
	9	身体部位別各論：上腕	
	10	肘関節	
	11	身体部位別各論：前腕	
	12	前腕	
	13	身体部位別各論：手関節	
	14	手関節	
	15	身体部位別各論：手	
	16	手指	
	17	身体部位別各論：骨盤	
	18	骨盤	
	19	身体部位別各論：股関節	
	20	股関節	
	21	身体部位別各論：大腿	
	22	大腿	
	23	身体部位別各論：膝関節	
	24	膝関節	
	25	身体部位別各論：下腿	
	26	下腿	
	27	身体部位別各論：足関節	
	28	足関節	
	29	身体部位別各論：足	
	30	足趾	

成績評価	筆記試験
評価基準	60点以上合格(100点満点)

分野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	柔整総合学習		
授業方法	講義		
単位数	9単位		
時間数	270時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	3年間学修した基礎分野、専門基礎分野、専門分野の内容を体系的に結びつける。・接骨、医療、福祉、スポーツなど将来の社会貢献の場に応じ学んだ内容をどのように生かして行くのかを学び現場に適応できるように卒業試験、国家試験に合格する学力を修得することを目標とする。					
授業計画	柔整総合学習（Ⅱ）					
	1	柔道整復学基礎	46	解剖学 基礎	91	衛生学・公衆衛生学発展
	2	柔道整復学Ⅱ	47	解剖学 Ⅱ	92	衛生学・公衆衛生学Ⅱ
	3	柔道整復学Ⅱ	48	解剖学 Ⅱ	93	衛生学・公衆衛生学Ⅱ
	4	柔道整復学Ⅱ	49	解剖学 Ⅱ	94	衛生学・公衆衛生学Ⅱ
	5	柔道整復学Ⅱ	50	解剖学 Ⅱ	95	衛生学・公衆衛生学Ⅱ
	6	柔道整復学臨床	51	解剖学 発展	96	リハビリテーション医学基礎
	7	柔道整復学Ⅱ	52	解剖学 Ⅱ	97	リハビリテーション医学Ⅱ
	8	柔道整復学Ⅱ	53	解剖学 Ⅱ	98	リハビリテーション医学Ⅱ
	9	柔道整復学Ⅱ	54	解剖学 Ⅱ	99	リハビリテーション医学Ⅱ
	10	柔道整復学Ⅱ	55	解剖学 Ⅱ	100	リハビリテーション医学Ⅱ
	11	柔道整復学Ⅱ	56	生理学 基礎	101	リハビリテーション医学発展
	12	柔道整復学Ⅱ	57	生理学 Ⅱ	102	リハビリテーション医学Ⅱ
	13	柔道整復学Ⅱ	58	生理学 Ⅱ	103	リハビリテーション医学Ⅱ
	14	柔道整復学Ⅱ	59	生理学 Ⅱ	104	リハビリテーション医学Ⅱ
	15	柔道整復学Ⅱ	60	生理学 Ⅱ	105	リハビリテーション医学Ⅱ
	16	国民医療費・倫理	61	生理学 発展	106	一般臨床医学基礎
	17	国民医療費・倫理	62	生理学 Ⅱ	107	一般臨床医学Ⅱ
	18	国民医療費・倫理	63	生理学 Ⅱ	108	一般臨床医学Ⅱ
	19	国民医療費・倫理	64	生理学 Ⅱ	109	一般臨床医学Ⅱ
	20	国民医療費・倫理	65	生理学 Ⅱ	110	一般臨床医学Ⅱ
	21	国民医療費・倫理	66	運動学 基礎	111	一般臨床医学発展
	22	国民医療費・倫理	67	運動学 Ⅱ	112	一般臨床医学Ⅱ
	23	国民医療費・倫理	68	運動学 Ⅱ	113	一般臨床医学Ⅱ
	24	国民医療費・倫理	69	運動学 Ⅱ	114	一般臨床医学Ⅱ
	25	国民医療費・倫理	70	運動学 発展	115	一般臨床医学Ⅱ
	26	関係法規	71	運動学 Ⅱ	116	外科学概論基礎
	27	関係法規	72	運動学 Ⅱ	117	外科学概論Ⅱ
	28	関係法規	73	運動学 Ⅱ	118	外科学概論Ⅱ
	29	関係法規	74	運動学 Ⅱ	119	外科学概論Ⅱ
	30	関係法規	75	運動学 Ⅱ	120	外科学概論Ⅱ
	31	関係法規	76	病理学概論基礎	121	外科学概論発展
	32	関係法規	77	病理学概論Ⅱ	122	外科学概論Ⅱ
	33	関係法規	78	病理学概論Ⅱ	123	外科学概論Ⅱ
	34	関係法規	79	病理学概論Ⅱ	124	外科学概論Ⅱ
	35	関係法規	80	病理学概論Ⅱ	125	外科学概論Ⅱ
	36	柔道（講義）	81	病理学概論発展	126	整形外科学基礎
	37	柔道（講義）	82	病理学概論Ⅱ	127	整形外科学Ⅱ
	38	柔道（講義）	83	病理学概論Ⅱ	128	整形外科学Ⅱ
	39	柔道（講義）	84	病理学概論Ⅱ	129	整形外科学Ⅱ
	40	柔道（講義）	85	病理学概論Ⅱ	130	整形外科学Ⅱ
	41	包帯学	86	衛生学・公衆衛生学基礎	131	整形外科学発展
	42	包帯学	87	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	132	整形外科学Ⅱ
	43	包帯学	88	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	133	整形外科学Ⅱ
	44	包帯学	89	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	134	整形外科学Ⅱ
	45	包帯学	90	衛生学・公衆衛生学Ⅱ	135	整形外科学Ⅱ
成績評価	卒業筆記試験					
評価基準	必修問題50問 80%以上 一般問題200問 60%以上 の両方の合格					

分野	専門分野		
教育内容	臨床柔道整復学		
講義名	柔整特講		
授業方法	講義		
単位数	8単位		
時間数	240時間		
学科	柔道整復学科	配当年次	3年
必修・選択区分	必修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	基礎分野、専門基礎分野、専門分野の内容をより広く、深く学び国家試験に対する知識を修得する。・3年間勉強した柔道整復師となるのに必要な知識を再学修し、国家試験合格の実力修得を目標とする。					
授業計画	1	国試対策：柔道整復学	46	国試対策：生理学	91	国試対策：一般臨床医学
	2	柔道整復学	47	生理学	92	一般臨床医学
	3	柔道整復学	48	生理学	93	一般臨床医学
	4	柔道整復学	49	生理学	94	一般臨床医学
	5	柔道整復学	50	生理学	95	一般臨床医学
	6	柔道整復学	51	国試対策：運動学	96	一般臨床医学
	7	柔道整復学	52	運動学	97	一般臨床医学
	8	柔道整復学	53	運動学	98	一般臨床医学
	9	柔道整復学	54	運動学	99	一般臨床医学
	10	柔道整復学	55	運動学	100	一般臨床医学
	11	国試対策：国民医療費・倫理	56	運動学	101	国試対策：外科学概論
	12	国民医療費・倫理	57	運動学	102	外科学概論
	13	国民医療費・倫理	58	運動学	103	外科学概論
	14	国民医療費・倫理	59	運動学	104	外科学概論
	15	国民医療費・倫理	60	運動学	105	外科学概論
	16	国試対策：関係法規	61	国試対策：病理学概論	106	外科学概論
	17	関係法規	62	病理学概論	107	外科学概論
	18	関係法規	63	病理学概論	108	外科学概論
	19	関係法規	64	病理学概論	109	外科学概論
	20	関係法規	65	病理学概論	110	外科学概論
	21	国試対策：柔道（講義）	66	病理学概論	111	国試対策：整形外科学
	22	柔道（講義）	67	病理学概論	112	整形外科学
	23	柔道（講義）	68	病理学概論	113	整形外科学
	24	柔道（講義）	69	病理学概論	114	整形外科学
	25	柔道（講義）	70	病理学概論	115	整形外科学
	26	国試対策：包帯学	71	衛生学・公衆衛生学	116	整形外科学
	27	包帯学	72	衛生学・公衆衛生学	117	整形外科学
	28	包帯学	73	衛生学・公衆衛生学	118	整形外科学
	29	包帯学	74	衛生学・公衆衛生学	119	整形外科学
	30	包帯学	75	衛生学・公衆衛生学	120	整形外科学
	31	国試対策：解剖学	76	衛生学・公衆衛生学		
	32	解剖学	77	衛生学・公衆衛生学		
	33	解剖学	78	衛生学・公衆衛生学		
	34	解剖学	79	衛生学・公衆衛生学		
	35	解剖学	80	衛生学・公衆衛生学		
	36	解剖学	81	リハビリテーション医学		
	37	解剖学	82	リハビリテーション医学		
	38	解剖学	83	リハビリテーション医学		
	39	解剖学	84	リハビリテーション医学		
	40	解剖学	85	リハビリテーション医学		
	41	国試対策：生理学	86	リハビリテーション医学		
	42	生理学	87	リハビリテーション医学		
	43	生理学	88	リハビリテーション医学		
	44	生理学	89	リハビリテーション医学		
	45	生理学	90	リハビリテーション医学		

成績評価	筆記試験
評価基準	60%以上合格

分野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	柔整柔道実技		
授業方法	実 技		
単位数	2 単位		
時間数	60 時間		
学 科	柔道整復学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師、全日本柔道連盟公認指導者		

講義内容・目標	柔道実技および認定実技審査の柔道実技の課題を修得する。・礼法、礼節、受身、投げの形、乱取り、柔道の知識など卒業実技および認定実技審査の柔道実技の課題の合格基準に達するように反復練習を行い臨床的な技能を身につけ合格を目標とする。		
授業計画	1	基本的動作の修得：姿勢	
	2	基本的動作の修得：体捌き	
	3	基本的動作の修得：位置の取り方と移動	
	4	礼法（立礼）	
	5	礼法（座礼）	
	6	受け身①（前方回転受け身）	
	7	受け身②（対人受身）	
	8	投の形 礼法（立礼・坐礼）	
	9	投げ形 手技 浮 落	
	10	"	
	11	背負投	
	12	"	
	13	肩 車	
	14	"	
	15	腰技 浮 腰	
	16	"	
	17	払 腰	
	18	"	
	19	釣込腰	
	20	"	
	21	足技 送足払	
	22	"	
	23	支釣込足	
	24	"	
	25	内 股	
	26	"	
	27	約束乱取り：立 技	
	28	立 技	
	29	総合練習	
	30	総合練習	

成績評価	①柔道実技試験＜卒業実技試験＞ ②柔道実技試験＜認定実技審査＞
評価基準	①60点以上合格(100点満点) ②B評価以上で合格(A・B・C3段階評価)

分野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	臨床治療実技		
授業方法	実 技		
単位数	1 単位		
時間数	30 時間		
学 科	柔道整復学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	臨床の現場で用いられる柔道整復師の種々の技術を学ぶ。・臨床で用いるカイロプラティック、スパイラルテーピングなどの実践的な技術と対象、効果、効能、注意事項を日常臨床に携わる柔道整復師から、より実践的に修得することを目標とする。		
授業計画	臨床治療実技 (IV)		
	1	徒手療法	
	2	〃	
	3	〃	
	4	〃	
	5	スパイラルテーピング	
	6	〃	
	7	〃	
	8	〃	
	9	カイロプラクティック	
	10	〃	
	11	〃	
	12	〃	
	13	臨床柔整療法	
	14	〃	
	15	〃	

成績評価	学修成果評価
評価基準	60 点以上合格 (100 点満点)

分野	専門分野		
教育内容	柔道整復実技		
講義名	柔整総合実技		
授業方法	実 技		
単位数	3 単位		
時間数	90 時間		
学 科	柔道整復学科	配当年次	3 年
必修・選択区分	必 修		
実務経験	柔道整復師		

講義内容・目標	卒業実技および認定実技審査の柔道整復実技の課題を修得する。・診察、整復、検査、固定など卒業実技および認定実技審査の柔道整復実技の課題の合格基準に達するように反復練習を行い臨床的な技能を身につけ合格することを目標とする。		
授業計画	1	診察及び整復実技：鎖骨定型的骨折	
	2	〃	
	3	：上腕骨外科頸外転型骨折	
	4	〃	
	5	：コーレス骨折	
	6	：肩鎖関節脱臼[上腕脱臼：Tosny 分類の第2～3度]	
	7	：肩関節前方烏口下脱臼	
	8	：肘関節後方脱臼	
	9	：肘内障	
	10	診察及び検査実技：肩腱板損傷（ペインフルアークサイン）	
	11	：肩腱板損傷（インピンジメントテスト）	
	12	：上腕二頭筋長頭腱損傷（ヤーガソンテスト）	
	13	：上腕二頭筋長頭腱損傷（スピードテスト）	
	14	：ハムストリングス損傷[肉ばなれ]（膝関節屈曲抵抗テスト）	
	15	：ハムストリングス損傷[肉ばなれ]（股関節他動伸展テスト）	
	16	：大腿四頭筋打撲（膝関節他動屈曲テスト）	
	17	：大腿四頭筋打撲（膝関節自動伸展抵抗テスト）	
	18	：膝関節側副靭帯損傷（膝関節外反ストレステスト）	
	19	：膝関節側副靭帯損傷（牽引アプライテスト）	
	20	：膝関節十字靭帯損傷（前方引き出しテスト）	
	21	：膝関節十字靭帯損傷（ラックマンテスト）	
	22	：膝関節半月板損傷（マックマレーテスト）	
	23	：膝関節半月板損傷（圧迫アプライテスト）	
	24	：下腿三頭筋損傷[肉ばなれ]（足関節他動背屈テスト）	
	25	：下腿三頭筋損傷[肉ばなれ]（足関節自動底屈抵抗テスト）	
	26	：足関節外側側副靭帯損傷（前方引き出しテスト）	
	27	：足関節外側側副靭帯損傷（内反ストレステスト）	
	28	固定能力の実技：鎖骨骨折[リング固定・8字帯固定・Sayre テープ固定]	
	29	：上腕骨骨幹部骨折[ミッデルドルフ三角副子固定]	
	30	：コーレス骨折[クラーメル副子と局所副子・三角巾固定]	
	31	：第5中手骨頸部骨折[アルミ副子掌側固定]	
	32	：下腿骨骨幹部骨折[クラーメル副子固定]	
	33	：肋骨骨折[さらしと厚紙副子固定]	
	34	：肩鎖関節上方脱臼[テープ固定]	
	35	：肩関節前方脱臼[局所副子・三角巾固定]	
	36	：肘関節後方脱臼[クラーメル副子・三角巾固定]	
	37	：手第2指PIP 関節背側脱臼[アルミ副子背側固定]	
	38	：アキレス腱断裂[クラーメル副子固定]	
	39	：足関節外側側副靭帯損傷[局所副子固定]	
	40	：膝関節内側側副靭帯損傷[X サポートテープ固定]	
	41	：足関節外側側副靭帯損傷[バスケットウィーブテープ固定]	
	42	：足関節外側側副靭帯損傷[フィギュアエイト・ヒールロックテープ固定]	
	43	総合練習	
	44	総合練習	
	45	総合練習	

成績評価	①柔道整復実技<卒業実技試験>	②柔道整復実技<認定実技審査>
評価基準	① 各実技項目60点以上合格(100点満点)	② B評価以上で合格(A・B・C3段階評価)

